

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は昭和51年の創立以来、生徒一人ひとりを大切にす学校、地域に愛され、信頼される学校をめざしてきた。その伝統を受け継ぎながら、さらに生徒のニーズや保護者の期待に応える学校となることをめざす。具体的には、次の三つに重点を置く。

【1】生徒の自己実現を最大限に支援する学校 【2】すべての生徒が安全・安心に生活できる学校 【3】地域としっかり連携して生徒を育てる学校

人権教育をベースとした系統的なキャリア教育を行うとともに、「一人ひとりを大切にす」きめ細かな学習指導、生徒の安全・安心につながる生徒支援を教職員が一丸となって行い、生徒や保護者に「野崎高校に入学してよかった」と心から言ってもらえるような学校づくりを行う。

2 中期的目標

1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり

(1) 生徒の「学ぼうとする力」を伸ばし、「生きる力」を育む

ア 学校がすべての生徒にとって安心して過ごせる「居場所」となるよう、生徒一人ひとりの人格を尊重し、きめ細やかな学習指導・生徒支援を行う。

イ 生徒の学習意欲向上のため教員の「授業力」を向上させる。計画・実践（指導）・評価・改善という一連の活動を繰り返すことにより授業改善および見直しを行う。また、校内における教員相互の授業見学、初任者研修・10年経験者研修等による公開授業・研究協議への参加や、大阪府教育センター等で実施される研修・研究授業等に積極的に参加する。

ウ ますます多様化する家庭環境の変化等を含む様々な課題を抱える生徒に対して一人ひとりの教育的ニーズを把握するため、SC・SSW・居場所スタッフ等外部人材を積極的に活用し、連携しながら生徒の自己実現を支援する。また、必要に応じて地域の関係機関等とも連携を図るとともに、本校生徒の様々な学習活動の場として、メンタル面から支援する居場所カフェの継続、図書室の有効的活用を図る。

エ 本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」をめざし、きめ細かな学習指導・ICT機器を効果的に活用した授業形態や授業方法を工夫改善する。

※令和9年度までに、生徒授業アンケートの①「授業内容に興味・関心を持つことができた（興味関心）」と②「授業を受けて知識や技能が身に付いた（知識技能）」について、回答ポイント（満点4.0）について3.25以上を維持する。（①R4:3.13, R5:3.22, R6:3.29 ②R4:3.16, R4:3.23, R6:3.32）

※令和9年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「授業は分かりやすい」と②「自分は授業にまじめに取り組んでいる」について、肯定的回答率を①80%以上・②80%以上を維持する（①R4:67.3%, R5:71.0%, R6:75.7% ②R4:79.2%, R5:76.1%, R6:80.5%）。

(2) 自主性・自立性を育成するキャリア教育を推進する

ア 生徒の社会的・職業的自立に向け、チャレンジ精神を持って進路を切り拓く実践的な態度を育成できる、3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。

イ 地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップ、大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学、校内における各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やすことで、生徒の進路意識の向上を図る。

※毎年度において、学校斡旋による就職内定率100%と、理由のない進路未決定者0名をめざす。

※年1回のインターンシップを実施。

※令和9年度までに、生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率とともに80%以上を維持する（生徒 R4:75.1%, R5:78.0%, R6:81.4% 保護者 R4:79.5%, R5:80.8%, R6:86.4%）。

2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり

(1) ますます多様化する家庭環境の変化等を含む様々な支援の必要な生徒に対して、生徒一人ひとりの状況や教育的ニーズに応じた、きめこまやかな教育相談・教育支援の体制を構築することにより、困り感を抱える生徒の早期発見及び早期対応につなげ、問題事象の発生や不登校、中途退学を未然に防ぐ。

(2) 家庭や地域と連携した遅刻指導、服装・頭髪指導、挨拶・マナー指導等を実施するにあたり、教職員が率先垂範し、その問題行動の背景にある要因を多面的かつ的確に把握するとともに、カウンセリングマインドを持って行い、生徒の規範意識や自律心を育成する。

(3) 人権教育や総合的な探究の時間等の取組みを充実させ、他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神を育成する。

(4) HR活動、生徒会活動、部活動、学校行事等において生徒が主体的に参加・行動する取組みを進めることで、生徒の自尊感情や自立心を育成する。

(5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取組みを進める。

※令和9年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「マナーや校訓を守っている」②「頭髪・服装指導は適切である」③「遅刻指導・授業遅刻指導は適切である」④「野崎高校へ入学してよかった」について、肯定的回答率を①90%以上を維持・②70%以上・③80%以上・④80%以上を維持する。

（①R4:89.2%, R5:90.6%, R6:91.4% ②R4:56.2%, R5:57.3%, R6:65.2% ③R4:62.6%, R5:67.8%, R6:72.9% ④R4:73.7%, R5:76.9%, R6:83.8%）

※令和9年度までに、生徒向け学校教育自己診断の「野崎高校は一人ひとりが大切にされている」について、肯定的回答率を80%以上にする。

（R4:60.7%, R5:70.2%, R6:76.7%）

※令和9年度までに、生徒向け学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の肯定的回答率について80%以上を維持する。

（R4:74.0%, R5:77.3%, R6:82.4%）

※令和9年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「学校はいじめ・差別に対して適切に指導している」②「人権や命の大切さについての教育が行なわれている」について、肯定的回答率を①85%以上・②85%以上を維持する（①R4:75.3%, R5:77.6%, R6:80.0% ②R4:84.5%, R5:84.3%, R6:88.1%）。

※令和9年度までに、生徒向け学校教育自己診断の①「体育大会は楽しい」②「文化祭は楽しい」について、肯定的回答率を①85%以上・②85%以上を維持する。

（①R4:74.6%, R5:72.2%, R6:81.0% ②R4:77.8%, R5:74.5%, R6:85.2%）

※令和9年度までに、生徒向け学校教育自己診断「学校へ行くことが楽しい」の肯定的回答率を75%以上にする。（R4:62.3%, R5:65.1%, R6:68.6%）

※年2回以上、保健所との連携による健康増進にかかる取組みを実施。

3 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり

(1) 従来から実施されている各種地域連携行事に、本校生徒・教職員が今後も継続的に参加できる校内体制を整備する。

(2) 本校が中心となった地域連携行事を企画・実施する。

ア 近隣の保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校の児童生徒と本校生徒が交流する機会を設ける。

イ 地元の保育所、小・中学校、高等学校、大学等の教職員と本校教職員が交流する機会を設ける。

ウ 大東市、市内中学校、大阪産業大学と「合同事業」を実施し、本校生徒・教職員の魅力を発信する。

(3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。

ア 本校ウェブページの学校ブログやSNS等を定期的に更新することで、最新の情報を中学生、保護者、地域住民等に伝える。

イ 中学校への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。

4 教職員の働き方改革推進

(1) すべての教職員が、担当業務において常に必要性和効率化を意識して取り組む。

※ 教員一人平均の月当たり時間外勤務について 25 時間以内を維持する (R4:25.9 時間, R5:24.9 時間, R6:18.5 時間)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見												
<p>【全体】 生徒・保護者とも回答数が少ないことが課題。次年度は保護者連絡ツールを導入予定のため、改善が見込まれる。</p> <p>生徒向け (25 項目)、保護者向け (23 項目)、教職員向け (27 項目) を実施。肯定率 70% 以上は生徒 21 (R6:20) 項目、保護者 13 (R6:18) 項目であった。一定の評価はされているが、保護者では肯定率 5% 以上の下降が 14 項目あった。一方、生徒では肯定率 5% 以上の上昇が 10 項目あった。</p> <p>【生徒】 「学校へ行くことが楽しい」 65% は R6 年度比 3.6% 減だが、次年度は 80% をめざす。肯定率が高いのは「先生はわかりやすい授業のために工夫している」 93.9% 「自分は、マナーや校訓を守っている」 91.7% 「担任は親身になって相談や悩みに応じてくれる」 91.1%</p> <p>【保護者】 肯定率が最も低いのは「私は、保護者懇談や学校行事に積極的に参加している」 36.2% 保護者の就労状況や家庭事情等を考慮すればやむを得ないが、参加しやすい行事設定を考える必要もある。</p> <p>【生徒・保護者の肯定率の比較】</p> <table border="1" data-bbox="136 1261 871 1409"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒 (R6 比)</th> <th>保護者 (R6 比)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・「きめ細やかな進路指導…」</td> <td>85.0% (+3.6%)</td> <td>72.4% (-14.0%)</td> </tr> <tr> <td>・「ホームページやブログ…」</td> <td>48.9% (+2.2%)</td> <td>84.5% (-0.3%)</td> </tr> <tr> <td>・「一人ひとりが大切に…」</td> <td>87.2% (+10.6%)</td> <td>70.7% (-17.4%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>項目によっては、生徒・保護者の肯定率にかなりの開きがある。保護者に対する情報提供、説明が不足していると思われる。</p> <p>【まとめ】 近年、生徒一人ひとりに寄り添った指導に力を入れて取り組んでおり、生徒向けの数値には成果として表れている。一方で、保護者の数値では肯定率の低下も見られており、生徒だけではなく保護者に対しても適切な情報提供と丁寧な対応が必要である。次年度は府立学校全体で保護者連絡ツールを導入予定であることから、これらをうまく活用し情報提供に努めることで、数値の改善に繋げたい。</p>		生徒 (R6 比)	保護者 (R6 比)	・「きめ細やかな進路指導…」	85.0% (+3.6%)	72.4% (-14.0%)	・「ホームページやブログ…」	48.9% (+2.2%)	84.5% (-0.3%)	・「一人ひとりが大切に…」	87.2% (+10.6%)	70.7% (-17.4%)	<p>第1回 (7/11)</p> <p>○令和7年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人材を使ったクラブ活動等ができれば、より盛んになるのではないかな。 <p>○学校特色枠について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試験の点数が満たされなくても学校特色枠に当てはまれば合格の可能性があるため、入学生たちは学習についていけるか不安になるおそれがある。 ・ クラブ活動での成果を学校特色枠に入れ込むのはどうか <p>○人権教育の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域行事の運営者の高齢化が進んでいるため、生徒会などが一緒になって運営もできれば生徒たちもよい経験ができるのではないかな。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省が示す「生きる力」が教育では一つのテーマになっている。「生きる力」を学校経営計画 やスクールミッション・スクールポリシーに入れてみてはどうか。 <p>第2回 (11/26)</p> <p>○授業アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年による差が大きいのは、中学校でも同様。他の学校も含めて、学年の特徴は共通していることが多い。 <p>○広報活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒に対する手厚い対応もアピールポイントにできたら良いと考える。 ・ 野崎高校の生徒から、野崎高校の良さを伝える機会があれば、さらにイメージが良くなるのではないかな。 ・ 部活動の際、中学生向けに野崎高校に来てもらうようなことをしたら良いのではないかな。 <p>第3回 (2/5)</p> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の回答率が低いのは、保護者に不満がないからという見方もできる。 ・ 質問項目をより分かりやすくすることで、回答率が向上するのではないかな。 ・ 保護者の関心は小中学校に比べると低くなっているのではないかな。 ・ 学校に来たい理由、どうすれば学校が楽しくなるか、具体的な分析が必要ではないかな。 ・ 「野崎高校に入ってよかった」の値が高いのでアピールポイントになる。 <p>○令和7年度学校経営計画・評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野崎高校の人権教育を通して、「人とのコミュニケーション、人の温かみ」などを伝えられていると感じる。これらを推進することで、野崎高校の強みが生まれ、野崎高校の支援体制などを、広報活動を通して中学生や保護者に伝えるようにすれば良い。
	生徒 (R6 比)	保護者 (R6 比)											
・「きめ細やかな進路指導…」	85.0% (+3.6%)	72.4% (-14.0%)											
・「ホームページやブログ…」	48.9% (+2.2%)	84.5% (-0.3%)											
・「一人ひとりが大切に…」	87.2% (+10.6%)	70.7% (-17.4%)											

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり	<p>(1) 生徒の「学ぼうとする力」の伸長 ア 生徒が意欲的に授業参加できるような学習支援 イ 教員の授業力向上</p> <p>ウ 外部人材の積極的な活用と生徒支援</p> <p>エ 本校生徒にとっての「わかる授業」「できる授業」の実施。</p> <p>(2) 生徒一人ひとりの進路目標の実現 ア 3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践</p> <p>イ 生徒の進路意識の向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・すべての生徒が意欲的に授業に取り組むことができるようきめ細やかな学習指導、生徒支援を行う。</p> <p>イ・校内における教員相互の授業見学週間の設定とともに、適宜、初任者研修・10年経験者研修等による公開授業・研究協議を実施する。</p> <p>ウ・SC・SSW・CC・居場所スタッフ等外部人材を積極的に活用し、連携しながら生徒の自己実現を支援する。 ・図書室を授業や居場所カフェなど生徒の活動の場として、積極的に活用する。</p> <p>エ・「わかる授業」「できる授業」をめざし、きめ細かな学習指導を行うための教員研修の実施や教材等の情報共有により、授業形態や授業方法の工夫改善を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア・本校の実情に対応し、3年間を見据えたキャリア教育の計画と実践に取り組む。</p> <p>イ・地元企業・各種企業団体と協力した職場見学・インターンシップを実施する。 ・大学・短大・専門・専修・各種学校等と協力した学校見学や体験入学を実施する。 ・各種業者による体験セミナー等に参加する機会を増やす。 ・生徒が各種検定試験（①漢検②英検③ワープロ検定④数検⑤時事検定⑥情報処理技能）における資格取得をめざすことで進路意識の向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒授業アンケート「取組度合」の回答ポイントを前年度より向上させる。 [3.38]</p> <p>イ・校内で年間1回の一斉公開授業・研究協議を実施。 [1回実施] ・生徒授業アンケートで ①「興味関心」②「知識技能」の回答ポイント 3.25以上を維持。 [①3.29・②3.32、満点は4.0]</p> <p>ウ・外部人材の積極的活用 SC 35回[38回] SSW35回 [35回] CC 6回[6回] ・居場所カフェの参加者数平均を昨年並みに維持する。[25.3人]</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断の①「授業は分かりやすい」②「授業にまじめに取り組んでいる」について、 ①肯定的回答率を①80%以上・②80%以上を維持する [①75.7%・②80.5%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・就職内定率100%、理由なき進路未決定者0名をめざす[98.0%と1名]。 ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の「きめ細やかな進路指導がなされている」について、肯定的回答率を生徒・保護者ともに80%以上を維持する。[生徒81.4%・保護者86.4%]</p> <p>イ・以下の活動について昨年度の実績を維持する。 ① 職場見学[学校斡旋就職希望者1人3回] ② 大阪産業大学見学会 [0名] ③ 校内における職業体験セミナー [2年生対象にて校外実施] ④ インターンシップの実施[3名]</p> <p>・各種検定試験の受験者と合格者を昨年度より増やす。 [合格者数/受験者数は、①漢検0/0、②英検0/1、③数検1/4、④ワープロ5/9⑤時事検定0/0⑥情報処理5/6]</p>	<p>ア・生徒授業アンケート結果「取組度合」3.36(○)</p> <p>イ・11月に授業見学週間を1回実施、初任者による研究授業・研究協議を1回実施。(○) ・生徒授業アンケート結果(○) ①「興味関心」3.34 ②「知識技能」3.35 数値に大きな変化はないが、学年間の差が大きいため、次年度はそれを縮めることをめざす。</p> <p>ウ・外部人材活用実績(○) SC 33回 1回あたりの時間は増えている。 SSW 88回 拠点校となり活用回数が増えた。 CC 5回 ・居場所カフェ 25回実施 参加者数平均 22.7人(○) 居場所カフェは生徒からの人気もあり、次年度はさらに回数や参加人数を増やしていきたい。</p> <p>エ・生徒向け学校教育自己診断(○) ①「授業は分かりやすい」 83.3% ②「授業にまじめに取り組んでいる」82.8% 2項目とも数値の改善が見られる。次年度は更に高い目標を設定する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・就職内定率100% 理由なき進路未決定者0名(○) ・「きめ細やかな進路指導がなされている」(○) 生徒 85.0% 保護者 72.4% 生徒・保護者間の開きが大きい。学校の取組みが保護者にうまく伝わっていないことも考えられる。</p> <p>イ ・①職場見学[学校斡旋就職希望者1人3回] (実施時には教員の引率を必須) ②大阪産業大学見学会 希望者無しのため未実施 ③職業体験セミナー 校内実施[1・2年生全員] ④インターンシップの実施14名(◎) 進路行事は生徒のモチベーションアップに繋がっていると考える。今年度はハッシュタグダイソージャルとの連携事業を1年生で実施したが、次年度以降も継続していきたい。</p> <p>・各種検定試験の受験者と合格者(○) ①漢検 0/0、②英検 0/0、 ③数検 2/11、④ワープロ 11/12 ⑤時事検定 0/0、⑥情報処理 3/4 検定試験については受験者数が少ないが、進路意識向上のためのツールとしてうまく活用していきたい。</p>

府立野崎高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 すべての生徒が安全・安心に生活できる学校づくり</p>	<p>(1) 通級指導・支援教育の体制の構築</p> <p>(2) 生徒の規範意識や自律心の育成</p> <p>(3) 他人を思いやる豊かな心や人権尊重の精神の育成</p> <p>(4) 生徒の自尊感情や自立心の育成</p> <p>(5) 校内防災体制の整備充実と、卒業後を見越した生徒の健康増進を図る取組みの推進</p>	<p>野推進・(1) 定期的に教育相談委員会を実施し、SC・SSW・cc・居場所 staff 等外部人材と綿密な連生徒の自己実現を支援する。</p> <p>ア・通級指導体制を整備し、本校生徒の現状に合った支援を行う。</p> <p>イ・本校生徒の家庭環境、発達特性等の理解を深めるための教職員研修を実施する。</p> <p>ウ・必要に応じ、就学対策委員会にて「個別の教育支援計画」を確認する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒へ注意喚起するとともに学校近隣特に校門前の交通指導を行う。教員による校外巡回、交通安全指導、校門立番等を実施する。</p> <p>イ・教員からあいさつを行うなど、生徒への啓発活動を工夫し、服装・頭髪指導、挨拶運動等を効果的に実施する。</p> <p>・問題行動の背景にある要因を多面的かつ的確に把握するとともに、カウンセリングマインドを持って生徒指導を行い、生徒に寄り添った指導を心掛ける。</p> <p>(3)</p> <p>ア・コミュニケーション能力を高め、他者への理解を深めることにより、豊かな人権感覚を持った人材育成を図る学習を実施する。</p> <p>イ・喫緊の人権課題に対応する教職員研修・生徒向け人権研修を実施する。</p> <p>(4)</p> <p>ア・HR、生徒会、部活動、学校行事等で、生徒が主体的に参加・行動する取組みを進める。</p> <p>イ・総合的な探究(学習)の時間で行う「コミュニケーションワーク」に関する教員の理解を深め定着を図る。</p> <p>(5)</p> <p>ア・教職員実働防災訓練を企画、実施する。</p> <p>・生徒避難訓練の内容を見直して実施する。</p> <p>イ・地域の保健所と連携した年間1回のプロジェクトを実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・通級指導の実施 [2名延べ35回]</p> <p>イ・新転任の教員に対し、年3回の研修を実施する。</p> <p>ウ・支援の必要な生徒が在籍している際には必要に応じ就学対策委員会を開催し、支援の方法について協議・共有を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・生徒指導部中心に定期的な校外巡回[必要に応じて]交通安全指導[1回3日間+毎朝]を今年度並みに実施。</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の①「マナー・校訓遵守」②「頭髪・服装指導は適切」③「遅刻指導・授業遅刻は適切」について、肯定的回答率を①90%以上を維持、②70%以上③80%以上にする。 [①91.4%・②65.2%・③72.9%]</p> <p>(3)</p> <p>ア・生徒向け人権研修の内容を精査し、生徒向け学校教育自己診断の「人権や命の大切な教育を実施」について、肯定的回答率を85%以上に維持する。 [88.1%]</p> <p>イ・全体教職員人権研修を年2回[2回]、新転任者に対する人権研修を2回[2回]、生徒向け人権研修の機会を各学年2回[2回]以上実施。</p> <p>(4)</p> <p>ア・生徒会やHR等で生徒の主体的な取組みを増やし、より多くの生徒が活躍できるようにし、生徒向け学校教育自己診断の①「体育大会は楽しい」②「文化祭は楽しい」について肯定的回答率を①85%以上②85%以上を維持する。 [①81.0%②85.2%]</p> <p>イ・各学年の総合的な探究(学習)の時間で、コミュニケーションワークを年間3回実施する。 [3回]</p> <p>以上のことにより生徒向け学校教育自己診断の「学校に行くことが楽しい」について、肯定的回答率を75%以上にする。 [68.6%]</p> <p>ア・消防署と連携し、生徒避難訓練と教員実働防災訓練を1回実施[1回]。</p> <p>イ・保健所と連携したヘルスアッププロジェクトを2回実施[2回]。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・2名延べ37回実施 (○)</p> <p>イ・新転任の教員に対し年6回の研修を実施。(○)</p> <p>ウ・効果的に就学対策委員会を開催。臨時も含め、17回実施 (○)</p> <p>教育相談委員会、就学対策委員会とも定期的に開催し、必要な生徒支援につなげることができたと考えている。次年度以降も適切なタイミングでの支援ができるよう、校内体制を整える。</p> <p>(2)</p> <p>ア・校外巡視12回。4月に5日間の交通安全指導、毎朝の校門での安全指導を実施。(○)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断 (○)</p> <p>①「マナー・校訓遵守」 91.7%</p> <p>②「頭髪・服装指導は適切」72.2%</p> <p>③「遅刻指導・授業遅刻は適切」75.0%</p> <p>生徒と教員との関係ができていたことが数値に表れている。今後も生徒一人ひとりの背景や状況を踏まえたうえで適切な指導・支援を心掛けていく。</p> <p>(3)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「人権や命の大切さについての教育が行われている」 90.6% (○)</p> <p>イ・全体教職員人権研修を2回実施、新転任者に対する人権研修を3回実施、生徒向け人権研修を各学年2回実施。(○)</p> <p>研修内容については毎年見直しを行ったうえで実施していく。</p> <p>(4)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断 (△)</p> <p>「体育大会は楽しい」 79.4%</p> <p>「文化祭は楽しい」 81.1%</p> <p>生徒会役員を中心に、生徒が主体的に行事に取り組む機会が増えており、目標は達成できていないものの、生徒の満足度は高い状態にある。</p> <p>イ・各学年の総合的な探究の時間で、コミュニケーションワークを年間3回実施。</p> <p>「学校に行くことが楽しい」 65.0% (△)</p> <p>即効性の方策はないが、日々の授業や課外活動において、生徒のやる気を引き出す働きかけが必要である。</p> <p>ア・消防署と連携し、生徒避難訓練と教員実働防災訓練を1回実施。(○)</p> <p>イ・保健所と連携したヘルスアッププロジェクトを2回実施(血糖、血圧)。(○)</p>
--	---	--	--	---

府立野崎高等学校

<p>3 地域としっかり連携して生徒を育てる学校づくり</p>	<p>(1) 各種地域連携行事への、本校生徒・教職員の継続的な参加</p> <p>(2) 本校が中心となった地域連携行事の企画・実施。 ア 近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒の交流 イ 近隣諸学校園の教職員と本校教職員の交流</p> <p>(3) 広報体制の確立 ア 本校ウェブページの充実 イ 中学校への広報活動の充実</p>	<p>(1) ア・だいたう森づくりクラブ(里山ボランティア)地域教育協議会、ふれ愛教育協議会、中小企業同友会等の交流・協力関係を今後も維持する。 イ・大東市教育委員会と連携し、交流事業を実施する。</p> <p>(2) ア・近隣諸学校園の児童生徒と本校生徒もしくは教員が交流する行事、部活動、授業等を設定する。 イ・近隣諸学校園の教職員と本校教職員による、合同研修や研究授業等を実施する。 ・近隣の中学校と「合同部活動」を実施し、本校生徒・教職員の魅力を発信する。</p> <p>(3) 本校生徒の活動の様子や学校の取組みを積極的に発信する広報体制を確立する。 ア・本校ウェブページの学校ブログ、SNS等を定期的に更新することで、最新の情報を生徒、保護者や地域住民に伝える。 イ・中学校(生徒・保護者・教員)への広報活動を充実させることで、本校志願者の確保に努める。</p>	<p>(1) ア・地域連携事業に教職員が参加できるようにし、生徒の参加を促す。 イ・大東市教育委員会と密に連携を図り、交流事業を計画。</p> <p>(2) ア・本校教員による中学生向け授業(ミチャル)1回[1回]。 イ・緑風冠高校との合同人権研修を年1回実施[1回]。 ・校外向け授業公開(OPEN CLASS)を年1回実施[1回] ・大東市、市内中学校、大阪産業大学との合同事業「のざきBBS」を継続実施。</p> <p>(3) ア・校長ブログ、学校ブログ、SNSを合わせ、更新を平均週4回以上(約200回)行う。[385回] イ・本校生徒による出身中学校訪問の実施。[29名] ・出願者数を昨年度より増加させる。[101名]</p>	<p>(1) ア・中小企業同友会との連携懇談会に参加 里山ボランティアに、生徒有志と教員で3回参加。しじょっこ地域教育協議会の会合に教頭が出席。茨田地域の夏祭り、四条地区フェスティバルにフォークソング部が出演しイベントの盛り上げに寄与した。(○) イ・大東キャンドルナイトに参加(○)</p> <p>(2) ア・中学生向け体験授業(ミチャル)を1回実施。(○) 茨田高校からの引継ぎとして、寝屋川支援学校との交流会を開催。次年度以降も実施予定。 イ・緑風冠高校との合同人権研修を年1回実施(○) ・中高連絡会開催時に授業公開を2回実施(○) ・「のざきBBS」を35回実施。(○) 次年度は卓球スクールも開催予定 地域連携行事については、参加していない生徒や保護者、教職員に対する発信が不足している。</p> <p>(3) ア・校長ブログ48回、学校ブログ99回、SNS24回、合計171回更新。(△) 今年度は広報体制が一新したこともあり、効果的な広報活動があまりできていなかった。次年度はHP、SNS等を活用した広報を一層進めていく。 イ・本校生徒による出身中学校訪問の実施。[29名](○) ・出願者数101名(○)</p>
<p>4 教職員の働き方改革推進</p>	<p>(1) 必要性和効率化を意識した取り組みの推進</p>	<p>(1) ・管理職、首席、分掌、学年、各種委員会、事務室等の立場から業務の見直しを行う。 ア・学校閉庁日を拡大させ、全校一斉退庁日を設定する。</p>	<p>(1) ・教員一人平均の月当たり時間外勤務時間について、前年度より減らす。[18.5時間] ア・全校一斉退庁日(水曜日)を設定し、定時退庁日の増加を促す。夏季冬季ともに6日以上(約)の学校閉庁日を設定する。[夏季冬季合計12日]</p>	<p>(1) ・教員一人平均の月当たり時間外勤務時間は23.1時間(△) 時間外勤務時間の増加は、部活動の活性化も影響していると思われる。業務負担が一部の教員に偏らないよう、配慮・調整する必要がある。 ア・全校一斉退庁日を毎週水曜日に実施(○) 夏季冬季合わせ学校閉庁日を12日実施(○)</p>